

准フォレスター連携会議の開催

〔技術普及課〕准フォレスター研修修了生が一堂に会し、准フォレスターとしての活動報告、現地検討会を通じ、今後の准フォレスターとしての活動に生かすことを目的に各県・府・市民有林関係者 17 名（うち研修修了生 16 名）、中部森林管理局から 19 名（うち研修修了生 9 名）参加のもと准フォレスター連携会議を 11 月 6 日から 7 日にかけて岐阜県下呂市、中津川市で開催しました。

1 日目の全体会議では、准フォレスターとしての活動報告を各府県参加者から 7 課題、中部森林管理局参加者から 3 課題の計 10 課題の発表が行われました。民国准フォレスターが連携した森林共同施業団地設定への取組や准フォレスターと森林施業プランナーとの連携事例の発表など、それぞれの担当する地域や役割によって具体的な活動内容や活動するうえでの問題点等が発表され、発表を聞いた参加者からは准フォレスターとしての取組を具体的に知ることができ、また、他県の活動から共通点や相違点がわかったなどの感想がありました。

2 日目は、現地検討会として、岐阜森林管理署管内乗政国有林の架線集材箇所において、架線集材の概要について岐阜署柴山森林技術指導官、井上森林技術・支援センター所長より説明、一般材比率の向上と有利販売のための採材・仕分けについて松本森林整備部長より説明、採材木を見ながらの検討を行いました。地形や集材量等によっては有利なエンドレスタイラー式による架線は、近頃は見かけなくなり、技術の伝承の面からも現状を知っていただき、また、傷や曲りを避けて採材することで、価格面に大きな差が出ることを再認識していました。

その後、東濃森林管理署管内加子母裏木曾国有林の木曾ヒノキ備林に移動し間島東濃署長、鈴木森林整備官の案内で、本年執り行われた第 62 回神宮式年遷宮御用材伐採跡地の見学や岐阜県の名木にも指定されているヒノキとサワラの合体木を見学しました。参加者からは以前から見たかった木曾ヒノキ備林が見られて良かった、是非研修の場として使わせてほしいといった意見がありました。

2 日間を通じ研修生間の情報交換、技術・知識の共有の良い機会となり、次回開催を望む声もありました。このため、意見交換会の時間の設定や、現地検討会のメニューなど検討し、准フォレスターのフォローアップ、連携の取組を進めて行く予定です。



連携会議参加者の方々